

さいき 授業づくり Navi

「主体的・対話的で深い学び」

I 育成を目指す資質・能力を 明確にした単元構想

単元構想



バックワードデザイン (逆向き設計)

学習目標 子どものゴールの姿を想定



学習評価 どのように達成状況を見取るか



学習内容 学習内容に応じて
どのような手立てを講じるか

※これを検索!
「楽しくて力の付く授業づくり」
～新大分スタンダードR8改訂版～



II 必然性のある「対話」と 学びを実感できる「振り返り」

【必然性のある「対話」】

「深める発問」

「なぜ?」「もし~なら?」「本当?」
など、子どもの思考を一段階深い
レベルへと引き上げる発問

個別最適な学びと
協働的な学びの往還

「個別最適な学び」は、
「指導の個別化」と「学習の個性化」
の2つの側面があります

考えを広げたり・深めたりするための対話へ

【学びを実感できる「振り返り」】

学習の成果にとどまらず、**学習の過程**に目を向け
させたり、**学びの連続性**を意識させる「振り返りの
視点」を大切にします

※これを検索!
「授業づくりのポイント『振り返り』の充実に向けて」



III 子どもの姿で検証・改善する 組織的・主体的な校内研究

学び合い、高め合う教職員チーム

ビジョンの共有

学校の教育目標に基づいた
「目指す子ども像」の共有

研究体制の整備

担当者任せでなく、全教職員
が当事者意識を持って

授業実践

互いに授業を参観し、
具体的な子どもの姿で
授業改善

教材研究

専門性を生かし、
子どもの実態に応じた
授業づくり

心理的安全性
の確保

子どもの姿を介して、本音で
語り合える同僚性の構築

※これを検索!
「『つながる・つなげる校内研究』に向けた対話する手引書」
管内の好事例 P14~15



「特別支援教育の視点」

IV 全ての授業で、誰一人取り残さないよう手立てを講じる

- 児童生徒の理解度やつまづきを丁寧に見取り、必要に応じた支援を授業の流れに組み込む
- 視覚的支援、作業の段階化、選択肢の提示などにより、自分のペースで無理なく学べる環境を構築する
- 個別の指導計画推進教員の活用

※これを検索! 「『ユニバーサルデザイン』の良さを取り入れた学級・授業づくりハンドブック」

